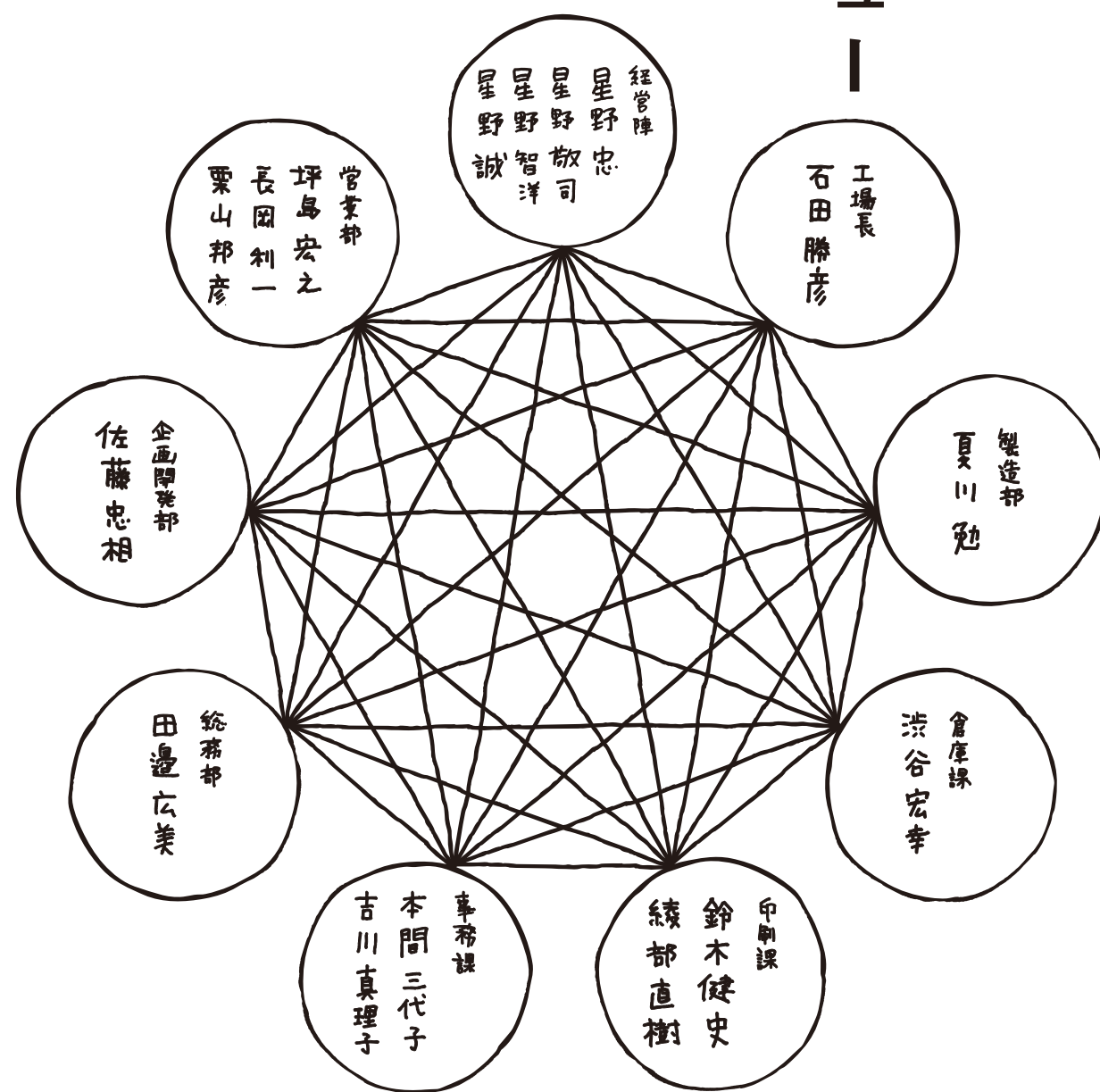




部課長 インタビュー



製造、印刷、倉庫、事務、企画、そして営業。90年にわたりもの作り
を続けてきた会社の、それぞれの現場の生の声。星野株式会社で働く
スタッフたちを代表して、部長と課長、そして工場長に話を聞きました。

かったので飛び込みで、少し経つとここも行ってみたらと少しずつ紹介が増えていって。

4、行くしかない(笑)

展示会にいくつも出るようになったのはここ 10~15 年くらいのことで、最初の10年くらいは飛び込みでしたね。一度断られても何度も行きまくってました、行くしかないと言われてたので(笑)。名刺を渡しても受け取ってもらえず、カタログも捨てるからいらないと言われ、10分か15分でその日の営業エリアをまわり終えることもありました。それでも通い続けて 1、2 か月ぐらいた頃、車の中を見てみたいという方がいらっしゃったり、最長で1年半ぐらい通って注文をいただいたこともありました。今の僕が見ても、当時の自分すごいなって思う時がありますね。

5、お客さんのお客さんも喜ぶ

お客さんとは商品から始めていろいろ話をしながら、どんなラッピングをしているか伺っています。その過程で疑問や悩みについて一緒に考えられたり、答えを見つけることができると、信頼していただくことにも繋がるんですよ。お客さんに僕らの提案を受け入れて頂き、星野の商品を使って頂く、それでお店のお客さんも喜んでくださる、そうなればいいなと心がけて営業しています。

6、これからの10年

星野を知らない方はまだまだ多いと思うんですけど、この5年ぐらいの間にお客さんが一気に増えたと感じています。でも、パリやいくつかの商品は使ってるよという方もいらっしゃいますが、商品がまだまだ認知されていません。新商品が出たことを知らないという方も多いので、これまでのやり方とはちょっと違う、もっと周知できるような種まきをしていきたいですね。それから、展示会はいつも自分たちが一番楽しむつもりでやっています。そうでないとお客さんも楽しめないのです。その精神で100年経ってもずっと、社員同士で楽しんでいける会社になればいいなと思います。

個人的◎星野の好きな商品

WRAPPING | Raisins

合わせやすい色合と蜜蠟WAXを使った絶妙な質感で作品を彩ってくれるところです。

PAGE : WRAPPING | P.105



坪島 宏之



展示会はいつも自分たちが一番楽しむつもりでやっています。そうでないとお客さんも楽しめないのです。

1、ここはなんて会社かな

坪島です、お花屋さんやお花に関わる資材を使われる方へ商品を紹介、販売しています。他の営業担当と違って富山に住みながら、富山を拠点に関西、中部、北陸、四国を担当しています。最近は既に星野をご存知で、オンライン登録もしてくださってる方が増えていと感じます。入社したばかりの頃は、展示会で他社さんと親しげに話されていた方が星野のブースに来ると、ここはなんて会社かなという反応をされることがよくありました。だから、僕らの知らないところで商品を使ってくくださる方が増えてるのはすごく嬉しいです。

2、人と話すのが好き

新卒でCEO(星野敬司)と同じ年に入社したので、もう25年ぐらいですね。営業職へのこだわりはなかったんですけど、たぶん人と話すのは好きなんだろうなと思います。佐藤(現企画開発部長)から北陸担当を引き継ぎながら営業を教わりました。先輩が2人いたんですけど、僕の指導は佐藤で、厳しかったです。今でもちょっと怖い(笑)。その分、他の先輩は優しくしてくれましたね。

3、タウンページ見て

富山に拠点を移してからは10年以上経ちます。最初は僕ともう1人の新人と佐藤とで営業に行きました。半年ぐらいうると1週間ごとに福島と富山へ交互に行って、2人でお客さんをまわり、お客さんと親しくなってきたら僕は富山と石川、もう1人は福島の担当になりました。当時はスマホもなかったので、タウンページ見て生花店と書いてあるところを地図でチェックしながら行き先を決めてました。最初は紹介もな

坪島 宏之



稲作 ほしの



HOSHINO

信念を曲げないやんちゃ坊主でした(笑)。それがお互い家族が増えた頃、久しぶりに会ったら印象が変わってたんです。大学でレスリングをやった話を聞いたらすごい苦勞をしていて。誘いを断らなかったのは、それがいちばんの決め手かもしれません。今でこそ花資材や農業もやってますが、自分が入社した時は果実袋だけでした。そのシェアも少なかったもので、農協でいろんな会社と研究開発した自分の経験を星野で生かしたいと思ったんです。農業委員会を立ち上げて毎月1回必ず会議で新商品の話をしたり、めっちゃくちゃ燃えてました。

5、徳を積む

現会長も前会長(現会長の兄)も、人間力がすごいというかオーラみたいなものがあるんですよね。言葉の通じない外国に行っても、自分のベースに巻き込んで商談を成立させてしまうような。そういうのって努力してどうにかなるものじゃないし、絶対に敵わないんですよね。だから会社には徳を積んでいってほしいんです。会社というか自分たちなんですけどね。一人ひとりが徳を積む、そういう人たちが集まると会社も良くなる、そう思って生きてます。小さいことですけどゴミが落ちてたら拾うとか、それぐらいしかできないし、それでいいのかなって、その積み重ねだなんて。そうすると本当に困った時、誰かが助けてくれるんですよ。

6、これからの10年

日々の積み重ねの結果が未来だと思ってます。いいこともそうでないこともいろんなことがあって、後悔しないように生きることしかないんじゃないですかね。それで例えば10年後に星野が必要とされなくなっていたとしても、それはそれで仕方がないのかな。そう考えると会社で農業をやっている、これはまだ誰にも言っていないんですけど、農業専門の担当になるのもアリかなと思ったりもします。みんなと働くのが楽しくて、これがずっと続けばいいですけどね。楽しさがお客さんにも伝わって、星野と何かしたい、星野の商品を買いたいと思っていただくのがいちばんなのかなと思います。

個人的◎星野の好きな商品

農業資材 | アイラブ二重袋

入社して始めて
自分が付けた品名だから



PAGE : 農業資材 | P.34



長岡利一

一人ひとりが徳を積む、
という人たちが集まると会社
も良くなる、そう思って生
きてます。

1、うっかり

30歳の時に入社して17年経ちます。まだ農協にいた頃、CEO(星野敬司)と飲んでいて、代替わりして自分たちの代になるんだという話から、よかったら星野に来ないかとなって。飲んでいたせいなのか、行こうかなって言っちゃったんだよなあ(笑)。農協での仕事にも慣れすぎてしまって、調子に乗っていたところもあったんですよね。農協では9年ぐらい、農家さんに何を植えたら良いとかか病気に効く薬剤をアドバイスしたり、防除歴を作っていました。

2、農業を学ぶ

実家は葡萄と梨と米を合わせて1町5反ぐらいの農家で、農業高校を出て県立農業大学校へ行きました。農業大学は全寮制で2年間学びます。もともと農家の後継者が集まる場所でしたが卒業して農業する人は半分もいなくて、農業関係の仕事に就く人が多くなってましたね。自分は跡取りとして育てられたんですが、ちょっと考えの甘いところもあって、まずは農協で働きながら家の仕事を手伝うことになりました。

3、兼業か専業か

地元の農協に勤めてみると、近所の農家さんがお客さんになるんですよね。コミュニケーションが取れて良かったんですけど、農協での立場も責任が増えてやめられなくなってきて。農協で働くほとんどの人が土日は田んぼに行く農家でもあったので、それでもいいかなと思ったんですけど、いよいよ専業は無理かなと。CEOに誘われたのはそんなタイミングでした。

4、めっちゃくちゃ燃える

CEOは小中学校の同級生で、上級生から睨まれても

長岡利一





営業部 課長

栗山 邦彦

(営業部 課長

えたんです。2016年にフローラルサポートが星野に吸収合併され、星野の営業として九州担当になりました。その際に、CEOと22泊の九州出張をしたのがいちばんの転機でした。

5、CEOの教え

展示会を重ねると自信になるし、人との出会いはいろんな刺激をくれます。人の話を必ず一回聞くとか勧められた本は読むということは、九州出張中にCEOから教われました。展示会の朝礼で必ずいちばん前の真ん中に座るのは、顔を覚えてもらうため。そんなふうに人間を叩き込まれました。

6、自分らしくていい

ずっとCEOやCOOのようにならねばと思ってたんですけど、自分らしくていいと思えるようになりました。個性があるのは強みだし、経営陣もそれをよしとしてくれるのは本当にありがたい。僕を知っていてくださる方が全国にいると実感したことも、自信になりました。お客様に育てていただいているという思いがあるし、誰かと出会う度に成長を感じます。

7、正直でいること

COOに言われたのは、仕事も私生活も含めて生き様だということ。仕事だからと考えたことはないです、人との出会いに関しては。大切にしているのは相手の気持ちになって考えることと、正直でいること。CEOやCOOを目指して自分って何だろうと探してきましたが、自分らしくいるしかない気づけたのは、近年のことですね。

8、これからの10年

僕たちと同じような営業マンは作りたくないんです。そうでないと星野が未来永劫続いていかないって。職人は10年修行して一人前と言われますけど、誰もが同じ能力じゃないし早い人もいれば遅い人もいます。だから、同じ苦勞をさせないと納得いかない社会にはしたくないなって。

お客様に育てていただいて
いるという思いがあるし、
誰かと出会う度に成長して
いるなと感じます。

1、わたくし、

営業部の栗山邦彦です。新潟をはじめ、北海道、東北、関西、中国、九州のお花屋さんを中心に担当してます。平成19年に星野の子会社だった、フローラルサポートに入社しました。もともとCEO(星野敬司)とCOO(星野誠)の義理のお兄さんが営むラーメン店〈ののや〉で働いていて、結婚して子どももいたんです。飲食店はどうしても不定休だったので、辞めたいと相談すると星野を紹介してくれたんですが、実際はフローラルサポートの方でした。

2、フローラルサポートの頃

入社はCOOと入れ替わるタイミングでした。フローラルサポートは問屋業なので他社の製品も扱いがあり、星野からは自社製品を売るように言われるんですが、言うこと聞きませんでしたね(笑)。事務所は星野の敷地内にありましたが、交流はほぼなかったですね。僕らはずっと出張に出てるような状態だったので。

3、領収書の書き方

よくネタにしてるんですが、入社した頃は領収書の書き方ひとつ知りませんでした(笑)。最初の3ヶ月はCOOについて出張へ行きましたが、その後は見よう見まね。独り立ちしたのも4、5月のいちばん忙しい時期。出張先で18時半頃に営業を終え、伝票を書いたり注文書をFAXしたりはそれから、ホテルに帰るのは21時過ぎという生活でした。

4、暗黒期からの転機

フローラルサポートでは仕事を教わった記憶はあまりなくて、腐ってましたね(笑)。売上の上げ方もわからず下がり続ける中で、親会社の星野が華々しく見

個人的◎星野の好きな商品

栗山
邦彦



WRAPPING | TAMA

紙質×デザイン×風合×
どこにもない。まさしく
パーフェクトラッピング!



PAGE : WRAPPING | P.86



企画開発部 部長

佐藤 忠相

(企画開発部 部長

といったあたりですね。パロックは幅が75cmから65cmへ変更になったんですけど、その際に名前もパロックⅡになりました。

4、パソコンは独学

いつ頃から製作に関わるようになったのか、記憶が定かでなくて(笑)。坪島くんを引き継いだ後に別のエリアを担当して、その後に配置換えで2、3年ぐらい倉庫担当になりました。花資材の出荷をメインに担当しながら、製作のほうも少しずつ始めていって。パソコンに明るかったというわけではないんですが、そういうことにしておきましょうか(笑)。イラストレーターであるとか、製作に必要なパソコンの技術は独学です。わかったつもりになった時期もありましたが、突き詰めていけばいくほど何もわかっていないなと、日々学んでいます。

5、ギュッと引き締める

校正を出力したりということに関しては、スピード感というか、締め切りよりも1日早く出すという感覚でやってます。色ブレの確認であるとかは、許容範囲が広がっていくのを、なんとかギュッと引き締めるようにしています。ただ、もっと赤くして欲しいとか青くして欲しいとか伝えることはできても、自分で営業しているわけではないし調色もできるわけではないので、お客さんと現場の間での、できる限りベストな落としどころを探すように心がけています。

6、これからの10年

答えになってるかどうかわからないんですけど、これからも継続させていく課題はフレキシソ、オフセットをはじめ、印刷全体の品質をより高めていくこと。それからこの1年ぐらい課題になっている、ぶどう傘の製造計画をどれだけ効率化できるかということ。農業資材は県内での利用が少ないので、地元新潟でもう少し認知度を高めたいですね。花資材でいえば、そろそろモイストを凌ぐような人気商品を作りたい。そして10年経つと私も60を超えているので、後継者も育てていきたいですね。

個人的◎星野の好きな商品

佐藤 忠相



WRAPPING | CURURU

自社製造ラッピングの最古参。くるるとは苦楽を共にした長い付き合い。



PAGE : WRAPPING | P.114

パソコンに明るかったというわけではないんですが、そういうことにしておきましょうか(笑)。

1、何でも屋みたいな

企画開発部ではあるんですけども、現在は商品の企画開発を営業が担っているので、私はオリジナル商品の製作に関わる部分と、品質のチェックを行っています。輸入品についても同様に、色ブレであったり数量のチェックですね。オフセットの製版も社内で行っていて、専門的な知識では追いつかないところがあるんですが、パソコンを駆使して対応するようにしています。社内のいろいろなところと繋がりながら広く浅く、何でも屋みたいな感じです。強いて言えば、製袋についてはぶどう袋や三角袋等のデザイン入稿ぐらいの関わりで、あまり明るくないかもしれないですね。

2、師匠ということで

入社してから26、7年になります。CEO(星野敬司)より1年早いですね。花資材部門を立ち上げたときの、最初の営業部隊でした。当時はラッピングペーパーのほか、バスケットや器も仕入れて、問屋業も行っていました。担当していたのは県内と北陸方面、群馬の方も行きましたけど、エリアは今ほど広くなかったですね。CEOたちが入社してきて、九州や北海道にも広がっていきました。坪島くんが担当してる富山と石川は、彼が入社してきて1年ぐらいで引き継ぎました。営業の師匠?そういうことにしておいてください(笑)。

3、ロングセラー

撥水機で加工した紙を使った、シャーベットという名前のものが最初の自社ラッピング製品ですね。現在はもう廃番になってしまいましたが。自社製品で古い順に言うと、くるる、ハード、それからパロックⅡ





総務部 部長

田邊 広美

（総務部 部長

4、変わったこと、変わらないこと②

今はオンラインショップでもご注文いただいでいて、受注データをシステムに取り込めるので、内容の一つずつ入力せずに済むようになり、省力化されました。一方で、社内の販売管理システムのデータと、オンラインショップの在庫データが全く繋がっていません。将来的に考えていきたいのはそこところで、在庫状況がオンラインショップにも反映されて、お客様にもすぐ周知できるようなシステムにしていきたいというのがいちばんの願望ですね。

5、部署が変われば

経理以外でやってみたいことですか？ 普段からお札や書類を数えてるのもあるんですけど、紙を揃えるのが好きなので、製袋作業をやりたいです。その部署へ行行ってやってみてこそみんなの苦勞もわかりますし、交流にもなっているのかなと思います。他の部署に行けばそこでは私も新人なので、逆の立場になり新入社員の悩み事や苦勞を知ることできるし、ペアを組む人とも交えることもできますし。いちばん大変な部署かなと思いますけど、製袋はやってみたい仕事の一つですね。

6、働いてる家族に会う日

CEO が家庭第一ということをよくおっしゃっているので、他の企業さんでも実施されていますが、年1回くらいファミリーデーを作って家族に工場見学をしてもらうような企画はどうかと思っています。家族がどんな仕事をしているのか、子どもたちにパパやママがお仕事しているところを見てもらえるような。土曜日あたりであれば、可能ではないかなと。シーズンオフの7、8月以外は月2回、土曜日でも稼働しているのでぜひ！

7、これからの10年

すでにお話させていただいたことと被るんですが、次世代のために、販売管理、製造管理、財務管理もベストなシステムを構築して、引き継げるようにしていきたいですね。

その部署へ行行ってやってみてこそみんなの苦勞もわかりますし、交流にもなっているのかなと思います。

1、優しさだけではダメ

総務部長を務めさせていただいていますが、CEO（星野敬司）には優しすぎるっていつも注意を受けています。部下が間違っているような時に、的確に指摘できてないんですね。経理の知識や正確さには自信がありますが、上に立つ者としてはまだまだ未熟者です。総務部内には経理課の他に事務課チームが2つあって、それぞれにリーダーを務める優秀な課長がいて、そのパワフルな2人の課長にいつもフォローしてもらって本当に助かってます。

2、経理今昔

途中で1年ほど離れていた時期もあるんですが、星野に勤め始めてから通算するともうすぐ35年ぐらになります。受注、指示書作り、発注と事務の仕事は一通り経験してます。入社した頃はまだ今のような大所帯ではなくて、経理もCFO（星野智洋）の自宅の一角にありました。その後、入れ替わりがあって25年前から私が経理を担当するようになり、しばらくしてから現在の事務所に移動してきました。

3、変わったこと、変わらないこと①

繁忙期などで売り上げが伸びれば、その分仕入れも起きてきますし、請求書の作成も増えます。某CMじゃないですけど、昔は本当に泣きそうになりながら、請求書を折って封筒詰めしてました。今ではかなり電子化されたので、請求書も紙ベースのものは半分ぐらに減りましたかね。ただ、領収書は未だに紙で発行して郵送したり、メールでお送りしたりしています。

個人的◎星野の好きな商品

WRAPPING | FANDE

柔らかくやさしさに包まれるような
雰囲気の肌ざわりとカラーバリエー
ションが大好きです♡♡♡

PAGE : WRAPPING | P.99

田邊
広美





事務課 課長

本間 三代子

ルールだからでやるよりも、
自分で考えてやった方が
楽しいし達成感も大きい
と思うんですよ。

(事務課 課長

出すと決めたらきっと出すんです、そういうルールになるので。でもルールだからでやるよりも、自分で考えてやった方が楽しいし達成感も大きいと思うんですよ。

4、メーカーって奥深い

星野に辿り着く前は星野と合併したフローラルサポートにいて、その前にも花材関係の会社にいました。20歳ぐらいからずっと、良くも悪くものりくまりとこの業界にいて今に至ります。長く問屋をやってきたので、変な話メーカーの方が簡単だろうと思ってしまっていました。問屋ではあっちこっちとメーカー毎に手配していたのを、メーカーではカタログ1冊覚えればいんだと思っていたので。ところがいざ入ってみたら全然大変ですごく奥が深くて、でもすごく楽しいです。

5、オンとオフ

仕事は割と、というか好きです。毎朝ちょっと早めに出社して机に座り、今日1日をどうしようかなと考えて、退社したら全部忘れて、というのを繰り返しています。ずっとそんなふうに仕事に向き合ってきましたね。仕事と生活を区切っておきたいというもあります。でも忙しい時期には「あれ出荷したっけ」とか「指示書は出したっけ」と、夜になってふと思い出すのが事務あるあるなんですけど。お酒ですか?がっつり飲みます(笑)。

6、これからの10年

私たちの次の世代を育てない限り、星野の成長もないと思っています。10年後にいろんな意味で追いついていってくれてることを想像して、今はまだ蒔かれたばかりの種である若い社員たちを育てていく、そんなイメージですね。長い歴史のある会社なので、入社した時にはすでにいろんな習慣が、時間が止まったみたいに残っていました。今はそれを全力で取っ払っているところです。花だ、農だって分けて受注入力してたりとか、花は誰、農は誰っていうのも、どっちも星野の志事なんだからごちゃまぜでやろうよって進めています。

1、インスタ始めました

私の方では既製品を中心にご注文いただいた内容を入力して、倉庫課へ繋ぐところがメインになります。事務課の中でも棲み分けがあって、手提げ袋などオリジナルのものは別に管理していますが、受注内容は必ず入力しておいて誰が見てもわかるようになっています。最近ではオンラインからご注文いただくことが増えてきて、事務としても助かっていますね。2、3年前からは、会社のインスタも担当しています。違った目線でいいと思うんだよねって経営陣に言われて。自分ではやっていなくて、見ていただけでした。最初は本当に泣きそうでしたけど、楽しいですね。友達の子どもや若い子たちにどうやるのか聞いたりして、すごく興味を持つようになりました。

2、全てはお客様のため

11時までにご注文いただいた分を翌日出荷するんですが、お客様の希望によっては当日に出荷したり、可能な限り対応しています。正直なところ、事務内にはルールどおりでという声も少なくないんですけど、それだけだとなんだか物足りないんですよ(笑)。性格上、ちょっと違うことをやっていた方が楽しいので。また出せて言ってると思われてるかもしれませんが、全てはお客様の感動のためですから。

3、ルールは捉え方

どこまで融通を利かせるのか、事務内でも議論になります。急なご注文分を出荷することに対して無理かも……とマイナスな反応をするより、注文が増えた!とプラスに捉えた方が成長できると思うんですが、私自身そこまで強く言えてないことがもどかしいんです。

個人的◎星野の好きな商品

本間
三代子



WRAPPING | PARIS/MOIST

圧倒的な色数の多さ!
必ず推し色が見つかるはず!
The 星野色が沢山
PAGE : WRAPPING | P.95/119



吉川 真理子

営業からお客様の思いを十分に引き出し、現場へわかりやすく伝えることを大切にしています。

(事務課 課長

4、事務から始まる

オリジナル商品のうち、手提げ袋を中心に指示書を作成しています。指示書は営業が伺ってきたお客様の要望やイメージを、現実的な物作りに落とし込み現場に伝えるためのもの。営業からお客様の思いを十分に引き出し、現場へわかりやすく伝えることを大切にしています。難しいのは、良いものができ上がってほしくて注意書きが増え、結果わかりにくい指示書になってしまうことですね。印刷課の鈴木課長とは毎朝打ち合わせをしています。週の目標を立てつつも、印刷予定が日々変わっていくので。私の甘さなのかもしれませんが、現場からは鬼だ、鬼だと(笑)。もちろん、厳しく言えるのは鈴木課長や工場長との信頼関係があるからです。

5、課題

例えば、手提げ袋のKシリーズは1枚ずつ手貼りしているアナログ感が良さでもあるんですが、母の日を前に欠品してしまうのが毎年の課題です。前年実績にプラスして目標を決め、やっとでき上がってきても、ありがたいことにすぐ欠品してしまうんです。この時期になぜないのかとお叱りも受けます。貼り手も足りてないんですが誰でもいいわけではなく、人材を見つける難しさを痛感しています。お客様が欲しい時に在庫がなく、ご迷惑をおかけしていることが本当に心苦しいです。CEOとは生産する商品を絞って、集中して数量を増やすのはどうだろうかと話をしています。

6、これからの10年

若い人たちに伝えていきたいのは「お客様の感動のために」を叩き込んでほしいということです。それを伝えたいと強く思うんですけど、言葉を選んでしまったりして、うまく伝えることができていません。教えていかなければならない立場でありながら、私自身にもまだまだ課題があるというか、成長していかなければという思いがあるので。時代や日々の変化に適応していきつつ、アナログの良さも失くしたくない。でも「え、そこまで……」という反応を感じると細かすぎるかなと反省したり、難しいですね。

1、事務が好き

もともと事務職が好きというか、電卓を叩くのが好きなんです。子どもの頃、おじいちゃんちが魚屋さんでレジがありました。レジを打つのが楽しくて、スーパーのレジ打ちを夢見ましたが、時代はバーコードをスキャンするようになりました。私は佐渡島の出身なんですが、高校卒業後に父と1年だけと約束して、1年制の専門学校へ通う名目で島を出させてもらったんです。以来、だましましこっちでもう30年近くになります(笑)。

2、スマホのおかげ

専門学校を出て事務職に就いたんですが、結婚を機に一度仕事を辞めました。再就職する時はなんだか自分に自信がなくて、違う職種にしました。携帯電話のボタンに印刷する会社でしたがスマホの時代になり、携帯からボタンがなくなって会社もなくなりました(笑)。星野は職安で偶然、私の前任の方が明日明後日に辞めるというタイミングだったみたいで、急募だったんです。CEO(星野敬司)と面接をして、かれこれ15年になります。

3、美味しいものは最後に

今はもう電卓を叩くことはほとんどないですが、ずっと叩いていたいです。原価計算をする時も、何種類かあると必要な項目を全て並べ、合計を計算するのは最後に残しておく変な癖があります。指示書は自動計算になったので物足りません。紙のサイズや種類、原価も頭に入っているんで、寸法が出ればいくら出せます。電話番号も全部覚えていた昭和の人間なので(笑)。

個人的◎星野の好きな商品

吉川
真理子

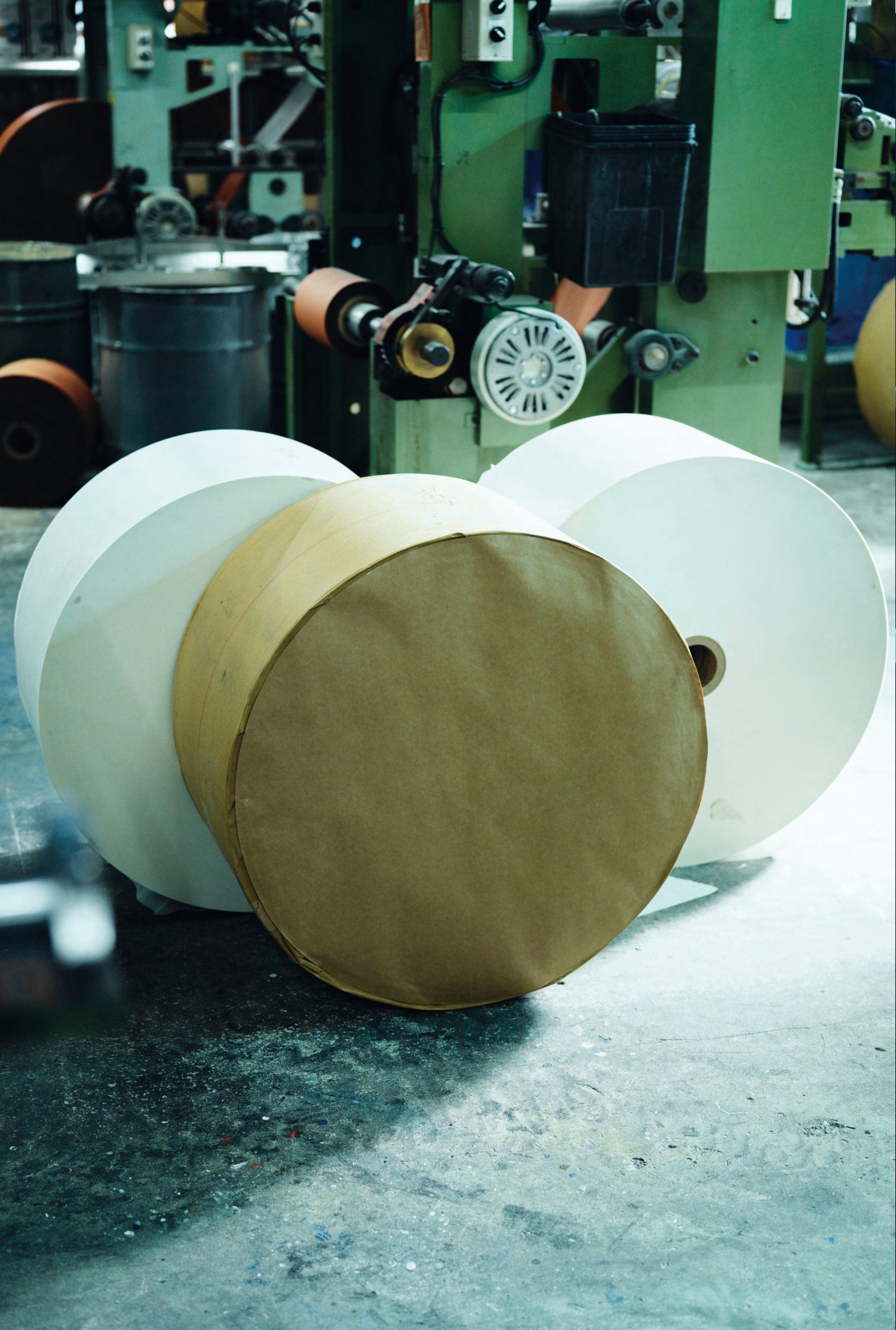


CARRY BAG | WAX BAG

クラフト紙に蠟引き加工をした風合い。使用することに出るシワのビンテージ感。

PAGE : CARRY BAG | P.140







工場長

石田 勝彦

（工場長

とは思いますが。色を混ぜて作ったりするのもすごく好きです。指定された色を見て、赤、青、黄色でほぼ出せますので（笑）。印刷をやったときはインキを練って、よく色を作っていましたね。

4、やるしかない

印刷以外にも箔押ししたり、製版したり、断裁をしたり、ステッチャーもリベットも、一通りのことはやりました。新しく導入される小さい機械の使い方を、最初に覚えるのも自分の役割なので。特別、機械が得意ということもないんですが、もうやるしかないという感じでした（笑）。使い方を覚えて伝えるところまでなので、難しさに気づくほど長く使ってないというのものもあるかもしれません。それでもやっぱり箔押しは難しかったですね、箔をちゃんと乗せるまでが。

5、名前を呼んで話しかける

工場長になってから20年くらいでしょうか。いつの間にかそういうことになってました（笑）。最初は工場長って言われたときに、えっ、と思ったけど、もう有無を言わずにという感じだったんですよね。工場長としては製袋の夏川、印刷課の鈴木と綾部と連携しながら、みんながギスギスしないような雰囲気づくりというか、コミュニケーションに気を配ってます。普段あまり喋らない人に話しかけるだけでも、違うと思うんですよ。名前を呼んで話しかけるとか、そういうのはできるだけするようにしてます。

6、これからの10年

自分的には、薄っぺらなんだけども、知識とか技術とか、そんな大したことないんだけど、自分の持っているものを次の人に全て伝えていくというか、今でも、若い人たちにはもう全部教えようと思ってやってますんで、そのぐらいなのかな。その人その人によって、やっぱり接し方も変わるといとか、厳しく言ったほうがいい場合もあれば、そうでない場合もあるので。人や状況に合わせて対応していきたいと思ってます。

最初は工場長って言われたときに、えっ、と思ったけど、もう有無を言わずにという感じだったんですよね。

1、引き抜き？

工場長の石田です。現在は撥水の仕事をしています。印刷の済んだ紙に撥水剤を塗布して、水をはじくための処理をするということですね。基本的には各部門に任せつつ、撥水を行いながら、何かあればその都度サポートしています。入社する前まで、星野のことは知りませんでした。印刷を担当してた人が辞められて、星野がオペレーターを探しているということで、知り合いの印刷屋さんから話があったんです。こういう会社があるけど行かないかって。引き抜きっていうような大げさなものじゃないですよ（笑）。たまたま人が足りなくなったんで、前の職場と揉めるようなこともなく。

2、ずっとオフセット

もともと、ここの隣の三条っていう町でオフセット印刷（平版印刷）をやっている会社に8年ぐらい勤めてました。星野に来てからもずっとオフセットを担当していて、星野で今ね、35年ぐらいいるのかな（笑）。当時は現在と比べればのんびりしていたところもあって、目標も今ほど具体的ではなかったかもしれませんが。今は社是どおり「お客様の感動のために」をみんな目指してやってます。いい方向に進んできたのは確かだと思います、実績もずっと上がってきてるの。

3、赤、青、黄色でほぼ出せる

そうですね、やっぱり印刷が長いですね。撥水をやるようになったのは2年か3年前、その頃あたりから撥水のほうが忙しくなって、撥水機は2台あるんですけど、2人がかりでどちらも一緒に動かそうということになりました。印刷と撥水ですか？どちらかというと印刷のほうが、やっぱりおもしろ味があるかな

個人的◎星野の好きな商品

石田
勝彦



WRAPPING | FANDE

柔らかくて心地よい手触りと優しい色合いが好きです。特に2番の色がかわいらしくて好きです。

PAGE : WRAPPING | P.99



順番を作って調整が少なくていいように、例えば、だんだん紙が薄くなっていくような工夫はしています。

4、こだわり

星野の100枚束は綺麗だと言っていたのがすごい嬉しいんです。スタッフたちの丁寧な製袋作業だけでなく、機械を調整するエンジニアたちの技術も評価していただけたのだと思えるので。袋を使う人にとっては、芸術作品レベルじゃなくてもオーケーかもしれません。でも、機械の調整の仕方次第でスタッフたちの1日の疲れ方が全然変わってくるんです。袋が揃えやすくなったり、不良品も発見しやすくなるわけです。

5、人も機械も

いろんな人を見てきましたが、やっぱりなんて言いますか、愛情を持つことが大切ですね。今は主任が2人いて、スタッフをまとめてくれています。ムードメーカーもいて、みんなの話を聞いたり、私と現場の橋渡し役もしてくれて雰囲気も良くなりました。機械も一緒です、愛情を持っていい子いい子してやらないと（笑）。以前は機械を1台ごとに全部バラして、ネジひとつまで洗う時間がありました。そうすると機械の状態が頭の中に入ってくるわけです。あそこのネジがどれくらいへたってるとか、シャフトがもうすぐダメになるんだよとか。ここ数年はそれができなくなってきましたね。注文が増えた一方で、どうメンテナンスしてやるかが課題です。

6、これからの10年

後継者、特にスタッフをまとめて引っ張っていけるような人材の育成がまず第一ですね。その後は、自分が30年やってきた技術をですね、若い人たちに伝えていくというのが私の役割になってくるかなと思います。10年後ですか？現役のつもりでいます。

いろんな人を見てきましたが、やっぱりなんて言いますか、愛情を持つことが大切ですね。機械も一緒です。

1、製袋のことならば

果実袋という製品を作ってます、製造部製袋課の夏川です。製造部では、男性スタッフは主にエンジニアですね。私の場合は18歳の時に入社して32年になるのかな、高校卒業してすぐだったので、今年51です。ずっと製造部でゼロから、今の女性スタッフたちが担当してるような製袋であるとかも全部経験して、製袋に関してはわからないことがないようにしています。

2、0.01ミリ単位の世界

果実袋というのはご存じかと思いますけども、主にりんご、ぶどう、なし等様々な、生育期の果実を包んで保護する袋ですね。用途に応じて様々な加工をされた紙袋を製造していて、私は主に機械のメンテナンスを担当してます。機械って金属じゃないですか、紙を鉄のローラーで引っ張るわけですよね。主にネジを回して調整するんですけど、少しの加減で紙に傷が入ってしまいます。紙にもいろんな種類があるので、ネジで微妙な調整をしなきゃいけないんですね。紙を手で引っ張って強さを見ながら感覚で、あとは0.01ミリ単位の世界です。

3、工夫

以前は1日に10万袋が普通でした。製品数が少なかったので、1台の機械で同じ製品をずっと作り続けられたんです。調整も毎回同じで、だんだん調子良くなっていくんです。機械がどこか悪くなくても、すぐ部品を交換すれば直りました。今は製品数も増えて機械の調整も複雑です。ひとつの製品に対して調子良くなってきたら、次の製品のためにまた一から調整、その繰り返しです。できるだけ効率のいい

製造部 部長 ／ 製袋課 課長

夏川 勉

個人的◎星野の好きな商品

夏川 勉



農業資材 | 果実袋

エンジニアなので商品の形になるまで機械を調整することが楽しいです。

PAGE : 農業資材 | P.25



例えばお花屋さんの手提げ袋だと、オフセット印刷が多いですね。オフセットの機械は薄い紙なら 0.04mm ぐらいから、厚いのは 0.4mm ぐらいまで対応できます。ただ、あまり厚すぎると紙を送るところのツメが紙を掴めなくて、途中で落としてしまいます。紙を 1 枚持ち上げて引っ張るためのコツというか、角度とか、この紙はこの位置かな、みたいなのがあるんですよ。同じ厚みでも紙の種類によって、例えば「スノークイーン」と「アトラス」だと全く違うんです。慣れるとここだ! ってところで 1 発でいけたりして嬉しい。長年の勘だから教えるのが難しいんです。印刷機とかによしよし的なこと? やりますよ (笑)。今日もよろしくねって、新規があるときは特にお願いねって。

5、色づくり

調色は苦手でした (笑)。子供の頃から美術の時間に絵の具を混ぜたりしたことがなかったので、最初は混ぜるとどうなるか分からなくて本当に悩みました。色によって、やりやすい、やりにくいがあるんですよ。最近だと紫を刷ったんですけど、赤っぽくなったり青っぽくなったりが難しかったですね。乾くとまた色が変わってくるし、さらに茶色い紙に紫だったので (笑)。乗せる紙によっても、全く違ってきます。なので、いろいろな条件に合わせて予測しながら、意外と変わらない時もあるんですけど (笑)。星野が作る色は基本が何なのかわからないような、微妙な色も多いので何を混ぜるか悩みます。最初に混ぜすぎると訳が分からなくなるので、2 色ぐらいから始めていきます。

6、これからの 10 年

みんなが気持ちよく仕事できるようなね、誰かが 1 人で悩んだりしないように、初めてのことは誰でも不安があるので、みんなで協力してやっていきたいと思っています。若い人も今増えてきたので、彼らが 10 年後にまた部下ができて、自分たちみたいに、楽しく教えていられたらいいなと思いますね。10 年後には 60 を超えてますけど、70 までは仕事したいと思っています。

個人的◎星野の好きな商品

鈴木健史



WRAPPING | That's

No.1、2 と何年もオリジナル包装紙として君臨し 1 番印刷した包装紙です。

PAGE : WRAPPING | P.116



印刷なんて全然やったこと
なかったんですけど、お前
ならできると言われて、わか
りましたと (笑)。

1、やった!

印刷課の鈴木です。20 歳で入社して 35 年になります。最初は断裁の担当で、1 度配送のほうで出荷を 1 年やって、それからずっと印刷です。印刷なんて全然やったことなかったんですけど、お前ならできると言われて、わかりましたと (笑)。実は印刷課にくるまで、ここだけは無理だと思ってました。でも辞めるという考えも全くなく、今では印刷がおもしろいですね。1 発で色が出るとやった! って思います。

2、製造の要

印刷課では印刷とカッターと断裁を行ってます。撥水加工もですね。カッターというのは、自動と手動とありますが、巻き取り (ロール) の紙をカットすること。断裁というのは、平板の紙をカットしたり、カッターで巻き取りをカットしたものをさらにカットすること。あとラボのほうで箔押しなど、型抜き加工も印刷課で行ってます。農業資材の製袋と蠟引き以外の、製造に関わるほぼ全てですね。

3、ラボでは

カッターと断裁のほうは綾部課長に任せて、自分のほうではラボのほうを見ている。ラボでは箔押し、シルク印刷、手提げの貼り加工とハンドルのリベット留め、紙箱の隅切りとステッチャー (針金) 留め、ラッピングペーパーを小巻きにしたりしています。今だとミシン縫いも加わりました。そうですね、印刷課と聞いてイメージされるよりも内容が幅広いかもしれません。

4、ちょっとマニアックな話

印刷はフレキシ、オフセット、シルクと種類があります。

鈴木健史

印刷課 課長



印刷課 課長

綾部 直樹

これは失敗したかなと思っても、それがすごく良かったりするし。味と失敗が区別つかない時もあるんですけど（笑）。

（印刷課 課長

ね。でも、やっぱり工場長ってやったことなくてもわかるんですよ、どんな能力なんですかね（笑）。

4、味が失敗か

凸版印刷はオフセット印刷とはまた違ってレトロな感じで、へこみ具合とかちょっとおもしろいですね。失敗したかなと思って、それがすごく良かったりするし。味と失敗が区別つかない時もあるんですけど（笑）。今はあんまり機会がないので、どうだったかって、後半によく慣れてくるんですよね。もっと自分が習熟して後輩たちに活躍の場がね、オフセットと両天秤とまではいかないだろうけど、そうになったらいいと思います。

5、達成感

最近だと、ライスを小巻きにした時なんですけど、ライスってゆっくり巻かないとシワになりやすいんですよ。遠目に見たら動いてないんじゃないかってぐらい。でも、この間たまたま見かけたらあまりにも遅くて、CEOにもどうかならないかと言われて、副工場長と鈴木課長と見に行っただけです。その時、こうすればいいんじゃないかというのが閃いたんですよ。そしたらそれがカチッとハマって、4倍くらいのスピードでガーッと巻けるようになりました。こうかなって思ったことが1発で決まった時は気持ちがいいですね。

6、これからの10年

もっと厳しいことでも指摘できるような関係性というか、どんどん何でも言い合えるような、言う方も言われる方もお互いに認め合えるような、この10年間でそういうチームになれたらと思うんです。個々の能力はもちろんですけど、より大切なのはチームワーク。今でもピンチを抱えた時に仲間に助けられますけど、さらに一丸となれば、星野はもっと強くなれる。100周年を迎えた時に、そうなれましたよと言いたいですね。

1、入れすぎない

印刷課の方で Cutter と断裁を担当してます、綾部です。Cutter というのはロールから平判（縦横を規定の寸法に切り揃えたシート状のもの）に加工することで、ロールを1本から最大4本まで、いっぺんにカットできます。断裁はロールから平判にしたものをさらに仕上げ裁ちするというか、最終工程が多いですね。例えば柔らかい育苗紙だと2,000枚ぐらいいけますが、入れすぎるとズレることもあるので注意です。

2、関越道1発

去年の11月で入社10年になりました。星野は紙関係の職を探していたたまたま見つけて、経験が活かそうだったのと、面接の時にいろいろ挑戦してほしいと言ってくれたのでおもしろそうだなと。面接はCEO（星野敬司）と工場長でした。その場で明日からと即決だったのでありがたかったです。もともと自分は東京で、母親の故郷がこっちのほうだったのもあり、27歳になる年に家族で新潟へ引っ越してきました。抵抗はなかったですね、関越道1発かなと思って（笑）。

3、どんな能力？

星野での仕事はたまに大変なこともありますけど、仲間にも恵まれて、1つひとつに面白さを感じます。印刷もやってみたいと思ってましたけど、今は若い人も入ってきたし、どうかな（笑）。数ヶ月に1回ですが活版印刷はやってます。ハイデルの型抜き機と動かし方が一緒だったので入りやすかったです。機械メーカーの人に2日ぐらい教えてもらったんですけど、いざ自分1人でやるとなるとわからなくなるんですよ

個人的◎星野の好きな商品

綾部 直樹



農業資材 | ぶどう傘

加工時に紙質による切れ味の違いがあり好きです。特にクラフト傘はたまりません！



PAGE：農業資材 | P.31



倉庫課 課長

渋谷 宏幸

（倉庫課 課長

やっぱり倉庫はスペースに
限りがあるので、増えていく
商品をどこに置くのかって
いうのが悩ましいところ
です。

1、必ず出す

倉庫課の渋谷です。主に商品の出荷と入荷ですね、集荷にきたトラックに積んだり、入荷も毎日のようにあるのでその段取りをしています。今（4月）は繁忙期なので一斉に注文が来ていて、1日にだいたい平均100件ぐらい出荷があります。大事なものは、今日出荷と決まっているものは必ず今日出さなければならないということですね。トラックが集荷に来る日も決まっているので、そこに間に合わせるのが倉庫課の役割です。

2、とにかく出す

在庫があっても出荷できる状態でない時もあります。別の離れた倉庫にある場合もあるし、包装加工待ちということも稀にあるんですよね。入荷してきたその日に即出荷することもあります。基本は、出荷前日の11時までに受けた注文が、昼過ぎには翌日の出荷指示書になります。当日に電話で、どうしてもすぐに出してほしいという場合もあるので、それもできるだけ対応するようにしてますね。事務所から出荷指示書が出たら、それぞれの持ち場の各スタッフにやり繰りを決めてもらってます。花資材が忙しければ農業資材から手伝いにいったり、出荷が早く済んだら在庫を確認して、不足があれば補充したり。倉庫課のスタッフは現在7名です。

3、どこかにあるはず

今、商品がアイテムもカラーも増えてますよね。モイストなんて90色もあるじゃないですか。やっぱり倉庫はスペースに限りがあるので、増えていく商品をどこに置くのかっていうのが悩ましいところです。同じシリーズを1ヶ所にまとめたくてもなかなか置ききれな

いので、データでは在庫があるのに商品が見つからないこともあって、だいたい意外なところから出てきます（笑）。倉庫を建てる計画もあるようなので、デカいのをドンッと作ってもらえるといいんですけど、でもその分また商品が増えて、すぐに置き場所なくなっちゃいそうですね。

4、ちょっと苦手

入社して25年ぐらい経ちます。その前は農協に8年ほどいて、米をリフトで積んだり降ろしたりしていました。農協を辞めたのはちょうど長岡と入れ替わるようなタイミングだったんですよね、あとから知りました。星野のことは全く知らなくて、たまたま募集を見つけて電話したんです。面接に来たら今の会長がいて、入れてもらうことになりました。面接では営業は勘弁してくださいとお願いしたんです、ちょっと苦手意識があったので（笑）。最初は配達まわりから、今もしてるんですけど出荷の方が多くなって、配達は少なくなりましたね。

5、精度とスピード

出荷に関して、色の間違いや数が足りないというミスをなかなかなくすることができず、お客様には本当に申し訳なく思っています。間違いがなくなるよう、逆に確認しすぎて出荷スピードが落ちるのも困りますが、お客様の感動のために少しでも精度を上げる努力を日々行なっています。そのために自分はスタッフのみんなができるだけスムーズに仕事できるような倉庫作りをしていきたいですね。

6、これからの10年

若手には自分のことだけでなく、人のためにほんのちょっと、落ちてるゴミを拾うだけでもいいんです、気づいたら片付けたり整理する、そういう気持ちを持って育ってほしい。忙しい時にあれこれ頼まれるかもしれないけど、頼まれるってことはそれだけ信用してもらえてるってことなので。お客様に対しても、遠くへ発送する時はその分だけ梱包に気を遣うとか。そういう人たちが働く会社であってほしいなと思います。

個人的◎星野の好きな商品

CARRY BAG | DN-SERIES

バッグの撥水加工だけではなく、持ち手にもWAX加工をしてこだわって作られているところ。

PAGE : CARRY BAG | P.142

渋谷 宏幸



